

本邦における子宮体癌に対する低侵襲手術(MIS)の実態調査

1. 研究の目的: 下記の診療情報等を利用し、本邦における腹腔鏡下子宮体癌手術の実態について解明することを目的としています。

2. 研究の対象となる方: 2015年01月01日から2017年12月31日までの間に、本邦の日本産婦人科学会悪性腫瘍登録施設で子宮体癌についての手術を受けられた方です。

3. 利用期間(研究実施期間): 研究機関長の許可日から2022年03月31日まで

4. 研究に用いる診療情報等の項目: 日本産婦人科学会悪性腫瘍登録データベース及び日本産婦人科学会悪性腫瘍登録施設から提供される診療情報(診断名、年齢、手術日、術式、組織型、病期、生存状況等)

当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

5. 利益相反に関する事項: この研究は、特定企業等からの資金提供はないため利益相反はありません。

6. 問い合わせ先: 大阪大学医学部附属病院(06-6879-3351)

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

7. 研究責任者: 大阪大学産婦人科 小林 栄仁

8. 問い合わせ担当者: 大阪大学産婦人科事務局 小林 栄仁

早期子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術におけるアトスプレーR 使用による有害事象に関する後向き・前向き観察研究

1. 研究対象者

2015年1月~2016年12月までの間に、産婦人科にて子宮体癌と診断され、産婦人科で診断・治療を受けられた方

2. 利用している診療情報等の項目

診療情報等: 年齢、身長、体重、腹腔内手術既往の有無、術前開腹歴、併存疾患、術前採血データ、術後感染症の有無、術後イレウスの有無、術後30日以内の有害事象の有無、手術内容、術後3年以内の再発状況 等

3. 利用の目的(遺伝子解析研究: 無)

子宮体癌に対する腹腔鏡下手術の合併症の頻度を調べることを目的としています。そして、ここで集められた情報をもとに、これから腹腔鏡下子宮手術が行われる患者さんの中で、癒着防止吸収性バリア・アトスプレーRが使用された患者さんの合併症の頻度とを比較検討するための基礎

データとして使用させていただきます。

4. 主な共同研究機関及び研究責任者（営利企業との共同：無）東京女子医科大学 教授 田畑 務

上記の診療情報等を、下記機関に対して、統計解析の実行のために提供します。

〔主な提供方法〕直接手渡し ?郵送・宅配 電子的配信 ?その他(FAX)

有限会社メディカル・リサーチ・サポート、代表：大谷 透

住所：大阪府大阪市中央区高麗橋 3-1-14 高麗橋山本ビル6F、電話：06-6202-5466、
FAX:06-6202-5445

5. 利用期間：研究機関の長の許可日より2026年12月までの間（予定）

6. この研究での診療情報等の取扱い

当院倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

7. 研究責任者および、研究内容の問い合わせ担当者

研究責任者：大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 中川 慧

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 産婦人科 本橋 卓 電話：03-3353-8111
(内線 28205) (応対可能時間：平日 9 時～16 時)

ファックス：03-5269-7348 Eメール：sr21det@rb3.so-net.ne.jp

子宮体癌術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法における、PSM(Propensity score matching)を用いた TEC 療法(Paclitaxel+ Epirubicin+ Carboplatin)と TC 療法(Paclitaxel+ Carboplatin)の予後に関する研究

1. 研究の対象

過去に大阪大学産婦人科及び大阪国際がんセンター、大阪警察病院、市立伊丹病院などの阪大産婦人科関連病院で子宮体癌手術により再発中・高リスク群(類内膜腺癌 G1/G2 かつ筋層浸潤 1/2 以上、類内膜腺癌 G3、漿液性癌・明細胞癌、子宮頸部間質浸潤または腔壁浸潤を有する場合、付属器や漿膜・基帯へへの腫瘍進展がみられた場合、脈管侵襲を伴う場合、リンパ節転移陽性の場合、膀胱や直腸浸潤・腹腔内播種や遠隔転移を有する場合)と診断され、術後化学療法を行った方

2. 研究目的・方法

子宮体癌の術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法において、PSM(Propensity score matching)を用いて交絡因子を調節し TEC 療法(Paclitaxel+ Epirubicin+ Carboplatin)と TC 療法(Paclitaxel+ Carboplatin)の予後比較を行います。子宮体癌術後再発リスク群に対して、より効果的に予後改善に寄与しうる化学療法レジメンを解明することが目的です。

全体で約 150 例以上の症例を集積し、それぞれの症例の背景因子(病歴や治療歴)や手術関連因

子、病理組織結果、副作用などの発生状況、生存や再発の有無、カルテ番号)を集積し解析します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報: 病歴、治療歴、手術関連因子、病理組織結果、副作用などの発生状況、生存や再発の有無、カルテ番号 等

4. 外部への試料・情報の提供

データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

大阪警察病院 香山 晋輔

大阪国際がんセンター 上浦 祥司

市立伊丹病院 雨宮 京夏、他

市立芦屋病院 宮田 明未

地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院 筒井 建紀

大阪急性期・総合医療センター 竹村 昌彦

大阪労災病院 志岐 保彦

大手前病院 中辻 友希

市立貝塚病院 横井 猛

関西ろうさい病院 伊藤 公彦

済生会中津病院 富家 真理

堺市立総合医療センター 山本 敏也

市立吹田市民病院 大西 洋子

市立豊中病院 辻江 智子

県立西宮病院 増原 完治

日本生命病院 橋本 奈美子

ベルランド総合病院 宮武 崇

箕面市立病院 足立 和繁

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら当科にお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者: 大阪大学大学院医学系研究科産婦人科講座 講師 上田 豊

子宮体癌における LSR の機能の解析

1. 研究の対象: 2000 年以降に当院にて子宮体癌の手術を受けられた方

2. 研究目的・方法 研究期間: 研究機関の長の許可日～2023 年 03 月 31 日

卵巣癌の細胞膜に高発現するタンパクである LSR (lipolysis-stimulated lipoprotein receptor) が癌の増殖に関連している可能性があり、その証明と子宮体癌における LSR の機能解析を目的とします。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料: 手術で採取された癌組織の一部

情報: 発症年齢、体重、進行期分類、組織型、局所浸潤・リンパ節転移・遠隔転移・腹水の有無、再発等の臨床的背景と LSR の発現強度 等

4. お問い合わせ先 本研究に関するご質問等がありましたら当科までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究責任者: 平松 宏祐 (助教)